

## あとがき

編集委員長 渡辺 隆一

昨年末、前会長の沼田真氏が急逝されました。戦後の早い時期から生態学を基礎にして、自然保護や環境教育の重要性を唱えられ、本学会の設立にあたって初代会長をお引き受けいただきました。また、学会運営においても指針を示されて、その後の本会発展の大きな支柱となりました。本当に長い間ありがとうございました。心よりのご冥福をお祈り申し上げます。

編集委員長を引き受けて半年、それがいかに困難でかつ重責か身にしみてわかりました。若い中の苦勞はかってでもしろと言われますが……。改めて歴代の編集委員会の皆様のご尽力に感謝し、私なりに最善の努力を続ける覚悟です。今後とも、投稿いただく会員の皆様の一層のご協力をお願いいたします。

本誌に投稿された論文は普通2名の査読者によって評価され、その上で編集委員によって判定がなされます。しかし、著者に再々度の修正を求めることも多く、掲載までに1年以上かかることもあります。こうした関係者間の連絡には今のところ全て往復に速達郵便が使われており、インターネットの時代だというのに通信のためにかなりの費用と時間が要求されます。私も古いなと思いますが、学会誌の編集にはやはり慎重な審査と修正がどうしても必要であり、こうした時間がかかります。これ以外にも編集に関して改善すべき点を多々感じるのですがいずれも積年の課題であり、今後とも努力してゆきたいと思います。

環境教育と「米国におけるテロ事件」との関係についても一言触れたい。地球や地域の環境は現実の世界や世間の構造と密接に関連しており、私たちや子ども達はその環境の中で暮らし、生きています。環境教育とは、そうした実際の生活の環境を学び、考え、より良いものとして主体的に創造しようとする教育活動であり、それは世界の現実を学ぶことでもあります。今回の米国へのテロも米国によるアフガニスタンへの報復戦争も共に

悲しむべき、大きな暴力であることには変わりはありません。環境をより良いものにしようとする環境教育はこうしたテロや戦争の暴力とは到底相容れないものであり、平和を求める教育でもあります。環境をとおして、世界の平和や人権、公正をも環境教育は学ぶことができるであろうと考えます。

環境を軸にしてどれだけのことが展開できるのかなど、いろいろな分野での教育活動についての投稿も期待しております。

## 査読者一覧(2001年度)

赤尾 整志	安藤 聡彦	泉 邦彦
板倉 豊	市川 智史	伊藤 清忠
井上 有一	榎本 博明	小川 博久
小川かほる	金森 正臣	鎌田 靖子
神谷 清仁	川崎 謙	木全 清博
北野日出男	鬼頭 秀一	木俣美樹男
陸 斉	小澤紀美子	小林 辰至
榊原 保志	笹谷 康之	信夫 隆司
新 広昭	新見 治	鈴木 善次
大丸 秀士	高月 紘	高山 博之
土永 浩史	戸田 耿介	中川 志郎
中川 重年	中野 友博	中村 祐治
中山 迅	西城戸 司	橋川喜美代
泰 明德	林 浩二	原田 泰
原田 智仁	広瀬 幸雄	藤岡 達也
松葉口玲子	松原 克志	松本 勝正
見上 一幸	水山 光春	宮崎 正勝
安彦 一恵	山岡 寛人	山下 宏文
山田 卓三	山本 友和	山本 義史
吉田 一良		

## 編集委員会

委員長	渡辺 隆一
委員	坂井 宏光
	下羽 友衛
	見上 一幸
	山本 勝博
	和田 武